

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4790500104		
法人名	有限会社アーバンエステート		
事業所名	グループホーム真栄原2丁目		
所在地	沖縄県宜野湾市真栄原2丁目25-10		
自己評価作成日	令和2年12月21日	評価結果市町村受理日	令和3年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790500104-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790500104-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和2年	1月	19日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホーム真栄原2丁目は、住宅街にのちあり静かで暮らしやすい環境にあります。地域の方々と世間話をしたり、近隣の住民との関係は良好です。利用者の多くは日中デイルームにてレク活動や、手工芸、体操レク、家事支援等の手伝いをされ楽しく過ごしています。利用者の生活の様子を定期的にご家族に報告し、ご意見や、要望を伺い、行事へ参加を呼びかけを行い信頼関係構築につとめます。利用者により良いサービスを提供するため、社内研修や勉強会の充実を図り、今後もサービスの向上に力を入れたいと思います。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は静かな住宅街にある平屋づくりとなっており、地域の方も散歩の際には気軽に声をかけあったり、事業所主催のイベントは現在、コロナ禍で施設内への出入りは出来ないが、普段は地域の住人が参加する等、利用者にとってもつづける環境となっている。食事は事業所内の厨房で作り、四季折々の食材を使い、食の豊かさを大切にしている。料理の下ごしらえ、配膳、食器洗い、おやつづくり等、利用者にも参加いただきながらこれまでの暮らしの継続ができるよう努めている。介護職員は離職率も少なく勤務年数の長い職員が多い。法人、管理者は働く職員の声を大切に、建設的な要望にはできるだけ応えており、良好なコミュニケーションを大切にしている。近年は利用者が介護の重度化傾向もあり、入浴ケアの対応に職員の身体的負担があるため、常勤職員を1名増員を図るなど長く働ける職場づくりに努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の御家族が面会に訪れてもわかるように、目の付くところに理念を掲示している、職員は常に理念を確認する事ができる、利用者が本人のペースで生活できるように支援を行う。	開所より掲げている理念は4つのキーワードでわかりやすく、職員や家族が共有できるように掲示され、会議時には一同で唱和している。「自分らしく生活できるように」に基づき、利用者の出来ること、能力を活かせる取り組みや、園芸等で楽しめる支援にも取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、外出自粛が続いたため、地域の方々との交流はほとんどなく、地域住民とのつながりがきずけなかった。	現在コロナ感染対策に伴い、外部の人との接触を避けるため、地域とのつきあいも自粛せざるを得ない状況が続いている。事業所は自治会に加入しており、これまで地域と積極的に交流を続けており、事業所で行うバーベキュー会には地域住民も参加するなど日頃から地域とのつきあいや交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年は中学生、高校生を対象に職場体験授業の受け入れをおこない、認知症の方々を理解して頂けるように努めていたが、今年コロナ禍で社協や学校からの依頼もなく、自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通常2カ月に1回運営推進会議を開催しているが今年コロナ禍で2回中止している状況、その際活動内容や入居状況、利用者の事故等を運営推進会議の委員の方々へ文書にして郵送している、今年新コロナの状況を踏まえ、利用者家族の参加を見送りました。	現在コロナ感染対策に伴い、外部の人との接触を避けるため、運営推進会議も自粛せざるを得ない状況にあるが、事業所の運営状況等については文書にて報告をし、連絡や相談を行いサービスの向上に活かせるよう努めている。会議には利用者家族の参加も促しながら家族の意向や声も活かしていきたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年新型コロナウイルス感染症の影響で、介護長寿課とは、電話やファックスでのやり取りが多く運営推進会議に参加された場合に意見を頂いている。	現在コロナ感染対策に伴い、外部の人との接触を避けるため、これまで定期開催してきた地域のグループホーム連絡会と市役所との協議も自粛せざるを得ない状況にあるが、管理者は事業所の運営状況等について文書で報告をし、何かあれば連絡や相談を行うなど、情報交換及び協力関係の継続に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒リスクが高い利用者に対して、センサーコールを設置している、ご家族に説明し了承を得ている、日中 玄関 中庭の施錠はせず、自由に入りできるようにしている。	事業所は身体拘束等の適正化のための検討会議や、様々な介護場面でも身体拘束を防ぎ、適切な対応が実施できるよう接遇改善に向けた勉強会、話し合いを定期的に行っている。今後も事業所として、身体拘束をしないケアを常に実践できるよう努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、定期的に勉強会を行っている、職員一人一人が同じ方向に向かい、虐待の禁止を認識し理解するようにとりくんでいる。	事業所は虐待防止について、職員の理解が深まるように年に4回学習会を実施している。管理者は職員自身が仕事上のストレスを抱え込まないよう声をかけ良好なコミュニケーションを図っている。利用者への言葉づかいや接遇等で気になるような場面があれば管理者はもちろん、職員間で注意し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について深く、職員間で話合ったりする事はなかった、今後勉強会を設けて知識を深められるように、取り組みたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書 重要事項説明書の内容を読み上げ、分かりやすく説明し了承を得たうえで、署名 捺印を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に面会時、意見や要望を聞いたりそれ以外にも、電話等でお話を伺っている、日頃の生活の状況を知りたいと家族の要望もあり、日頃の活動写真を掲示板に展示し、ご家族に見て頂いている。	事業所は、利用者や家族との対話から、介護や運営面での意見など聞くよう努めている。現在はコロナで自由にホーム内の状況が見えづらいこともあり、利用者の日頃の生活状況を知りたいと家族の要望もあったので、活動写真や動画を撮影し、家族が来所時には観賞してもらったり、アルバムを作成し提供するなどの取り組みを行い家族からも好評をいただいている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、ミーティングを通して、管理者、職員間で意見交換しこは改善した方がいいんじゃないかと、意見が出た場合は職員間で話し合い、業務内容の見直しにつなげている。	現在コロナ感染対策に伴い、外部の人との接触を避けるため、事業所への出入り面会も自粛せざるを得ない状況が続いてるが、事業所外での面会や連絡の機会には要望意見などを聞くよう心掛けて取り組んでいる。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいをもって仕事ができるよう、希望休み、年休が取れるように対応している、また夜勤は無理で日勤しかできないといった場合、希望に添った勤務が出来るように配慮している。	事業所は職員の健診を法定通り実施している。管理者は、職員会議や日々の申し送りの時に、要望や意見を聞くよう努め、建設的な要望であれば環境整備に必要な物品を購入したり、勤務体制などの見直し調整なども個別柔軟に行っている。職員へはスキルアップ目的とした外部研修への参加を促し、学び成長することを大切にしている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が必要とする研修、認知症介護実践者研修を受けられるようにし、働きながら介護福祉士資格所得を支援している、内部研修は1年の計画を立てて実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	訪問診療の医師、訪問看護の看護師、訪問マッサージの施術師との、情報交換を行い交流を深め、情報を収集して今後に生かせるように努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が不安にならないよう、定期的な声かけ、傾聴を行い、コミュニケーションを大切に楽しく過ごせるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族より、聞きたい事、困っている事の相談があった場合、十分お聞きした上でお答えしている、ご家族には、面会時や電話にて状況報告をしている、ご家族には話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や、ご家族の意見や要望を聞き必要としている支援を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活しているという意識を持ち、本人が出来る事、やりたい事を増やして、笑顔で安心して、生活できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活状況や、小さいけが、問題行動等があった場合、報告している、ご家族と一緒に本人を支えていく関係ができています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が元住んでいた周辺や、馴染みの場所に行きたいと言われるとドライブをかねて行くようにしている、友人や知人が訪れても面会はなるべく出来るように、安全に配慮し15分間は面会できるようにしている。	現在コロナ感染対策に伴い、外部の人との接触を避けるため、事業所への出入り面会も自粛せざるを得ない状況が続いているがミニドライブの際に利用者の馴染みのある神社仏閣や公共施設を訪ねるなど、馴染みの場との関係が途切れないように努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、口喧嘩になる事があるが、職員が間に入って対応している、また利用者が孤立しないように、食事の際はなるべく皆でとれるようにしており、問題が起こった場合、適宜席を替えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族より、相談等があればわかる範囲でお答えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前アセスメント以外にも、普段の生活の様子会話から、本人の思いを汲み取り支援が出来るように努めている。	利用者のなかで落ち着かずに頻回にナースコールを繰り返す利用者へは、家族と話し合い本人用携帯を用意し時間の制限を設けて家族と自由に対話ができることで落ち着いて生活ができるようになった。発語が難しい利用者にはジェスチャーや表情から思いを察することができるようにゆったりとした支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の聞き取り、生活歴、暮らし方など、情報を頂く、ご家族とも交流を深めながら、本人の情報をお聞きするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースに合わせ1人1人の、身体状況を見ながら過ごしていただいている、塗り絵、ドリル、パズル等を提供し勧めたり、洗濯物たたみ、もやしのひげとりの手伝いなどをお願いしている、1人1人役割を持って過ごせるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族と面談し、意見や要望を聞き利用者の普段の状況や気づいたことを、職員間で話し合い共有し、介護計画に反映させるようにしている。	介護計画は職員の支援への意向だけではなく、利用者家族の意見も尊重しながらプランを立てるよう心掛けている。介護計画は定期的に見直し、寂しさを感じないで暮らしたいというニーズに対しては利用者への声掛けや傾聴、活動への参加など個々の生活課題を利用者本位を踏まえながらケアを提供できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃から個人記録、申し送りが主となっているが、気になること、気づいたことがある場合、職員間で話し合いを行い、情報を共有し把握するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が気軽に面会や連絡できるようにしている、本人、家族の状況を理解し必要な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年新型コロナウイルスの影響で、外出活動や、地域交流はほとんど行えず、敬老会は、ボランティアを受け入れ規模を縮小し、安全に気を配り開催いたしました。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設と提携をしている医療機関との連携がある、受診され状態に異常がある場合、紹介状を頂いて、病院を紹介してもらっている。	現在訪問診療が2名、認知症専門医への受診は1名。入居後も、本人の意向を確認し、これまでのかかりつけ医や希望する病院へ受診を継続している。家族の付き添いで病院受診をしている。受診の際には事業所から家族へ、本人の様子など受診時に主治医へ伝える情報を書面で伝え医療連携をはかっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の看護師へ利用者の体調不良や、気になる事があれば相談し処置や受診等の指示を受けている、看取りに関しては、24時間オンコール体制で緊急時は夜間を問わず連絡し、相談する事が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院時情報提供書を作成し、日常の様子を伝えているまた病院のナースより直接電話等あった場合、利用者の情報を伝えるなど情報の交換をおこなっている、退院前には、必要があればカンファレンスに参加している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化して状態の変化があった場合、ご家族がホームでの看取りを希望された場合、本人、ご家族、主治医、看護師と連携を図り、終末期を過ごしてもらえよう、最大限に出来る事を行っている。	昨年11月に看取り支援を行ったことで、職員の看取りに対する支援の不安が、自信に繋がっている。事業所は看取りに関する指針やマニュアルの作成が整備せられておらず、今後作成を図っていく必要がある。現在看取り支援を希望する利用者が2人おり、終末期に向けた説明や希望を確認している。早めの対応ができるように、訪問診療や訪問看護との連携を図っている。	看取りに関する指針やマニュアルを作成し、職員間で共有することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について、夜間帯の想定も行い、職員のミーティングや訪問看護のナースを講師に勉強会等をおこなっている、AEDを設置し万が一に備えた対応をしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回、夜間想定、昼間想定で実施、避難方法や火災時の対応、消火器の使い方など基本的対応を学んでいる。	年2回昼夜を想定した訓練を職員と利用者が一緒に行い、避難場所、避難経路を確認し避難誘導がスムーズに行えるようにマニュアルを作成している。消火器の使い方などの訓練も定期的に行っている。備品の設備として、自動火災通報設備、スプリンクラー等の設置あり。3日分の食料品も備蓄も準備されている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への接し方、言葉遣いなど接遇の勉強会を通して、職員が意識し1人1人を尊重出来るように対応している、入浴は可能の限り、同性介助を行い、プライバシーの確保に努めている。	本人の気持や希望を大切に考え、本人の残存機能を維持しながら、できることを維持できるように支援している。利用者のアセスメントを把握し、利用者がピアノ演奏できるように、電子ピアノを準備して日々の生活を楽しむ時間づくりの支援を実践している。守秘義務について十分に理解し、取り扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断ではなく、利用者が自己決定できるような声かけをしている、本人の表情や態度から、本人の思いを汲み取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事等各利用者によって違うので、本人のペースで対応している、食事、入浴等拒否があった場合、時間をづらして再度行うなど、時間調整を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月ごとに、訪問理美容によるカットを実施、利用者、美容師と相談しながら、本人が気に入った髪型にしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お正月、お盆、誕生会、クリスマス等行事に合った料理を提供しているその際、家事支援の出来る利用者には、料理の下ごしらえ、食器洗いなど手伝ってもらい、出来る事はして頂いている。	事業所で3食、専任の職員が調理している。利用者のリクエストを聞き日々の献立作りに活かしている。季節の行事食や利用者の馴染みのある郷土料理を提供し、ヒラヤーチーなどおやつ作りも楽しんでいる。利用者は、野菜の下ごしらえや食器の片付けなど参加している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事形態(ミキサー食 キザミ食 )等 食べやすいようにしている、毎回食事摂取量を記録する事で、摂取量が少ない場合栄養剤、エンシユアなど、提供できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけを行い実施、自分で出来る方は自分でしてもらい、介助が必要な利用者は職員が介助する、拒否する事があれば時間をおいて再度声かけをし、実施している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを各職員が把握しトイレ誘導をしている、失敗があった場合陰洗や入浴を行い、気持ちよく過ごしてもらえているようにしている。	利用者ごとの排泄記録表へチェックし、排泄パターンを確認している。排泄の訴えが少なくなっている利用者には、職員が声掛けしたり、一人一人に合わせた排泄パターンに応じた支援に取り組んでいる。ポータブルトイレは夜間使用者が3人いるが、日中はトイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に水分量を多めにとってもらったり、体操等で体を動かしたるべく自然排便があるようにしている、必要に応じて座薬、下剤を使用する事もある。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎週(月、水、金)基本入浴日となっている、最低でも週3回入浴している、皮膚疾患があり軟膏塗布が必要な利用者は、毎日入浴して対応している、便失禁があった場合その都度入浴して頂いている。	脱衣所は、温度調節ができるように扇風機や暖房器具を設置して、季節に合わせて浴室と脱衣所の温度差がないように、気持ちよく入浴できる工夫をしている。週に3回、入浴時には同性介助で対応して羞恥心や不安感に配慮している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時は個別に対応している、無理に就寝を促す事もなくテレビ視聴がしたい利用者がいれば、なるべくテレビを観て頂いている、本人ペースでゆったり過ごせるように支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の薬剤情報は、職員が共有できるようファイルに綴りいつでも観れるようにしている、受診時薬の変更があれば、業務日誌に記入 申し送りや口頭でも伝え周知を図っている、服薬マニュアルを机の側にかけてあり、職員がいつでも観れるようにしてある。	マニュアルの作成あり。夜勤者が次の日の薬を薬箱にセットし、出勤してきた職員がダブルチェックしている。服薬時も、職員間でダブルチェックしている。服薬時に、飲み込み確認不足で、誤薬(落薬)があった。ミーティングの時に、職員間で再度マニュアル確認を行い、誤薬の再発防止を徹底できるように取り組んでいる。	誤薬(落薬)があったことから、服薬マニュアルに沿った安全な服薬支援に努めることが望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク活動、手工芸、花壇の水かけなど、利用者のペースに合わせ、過ごして頂いている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前はよく近所を散歩したり、職員と一緒に買い物などしていたが、今年はコロナ禍で、外出活動自粛、職員1人 利用者3名程同乗し、車から降りずに近隣をドライブする事は実施している。	コロナ禍の中で事業所として利用者の希望を聞き、感染対策に配慮しながら、近隣の散歩やドライブなどの支援に取り組んでいる。自分の家を見に行きたいという利用者の希望を聞き、車内からでも自宅が確認できるように、ドライブに行く計画を立て、職員間で調整して実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出することは、なかなかできず、利用者がお金を使う機会、支援は出来なかった。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者もいる、電話は原則自由、支援が必要な利用者には、職員が間に入って取り次いでいる。手紙等に関しては年末に、手作り年賀状を作成しご家族に送る支援をしている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭の花木を眺めたり水まきをしたり、また利用者が季節感を味わう事が出来るように、玄関には利用者と一緒に作成した四季折々の壁画を展示している。	共用スペースは、明るく清潔を感じられる。台所で調理している姿や香りが心地よく、五感の刺激となっている。季節に合わせた手工芸を利用者と一緒に楽しみ、完成した作品を共用スペースへ掲示したり、近隣の方からもらった草花を飾ったり、心地よく、落ち着いた雰囲気づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ディールームに1人用ソファー、3人用ソファーを用意し、利用者がくつろげるように対応している、仲の良い利用者同士で雑談されたりテレビ視聴できるようにしている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用していた馴染みの家具など持ち込みされ、本人が居心地よく落ち着ける部屋を作る事が出来るようにしている。	居室には、本人の馴染みの家具等、自宅で使い慣れた枕など持ち込むよう工夫している。家具の配置は、本人の導線に合わせて配置している。本人が居心地よく過ごせるように、利用者が家族と一緒に撮った写真を飾っている。部屋の入り口には、手作りの表札もあり、本人自身が住む環境作りに参加する取り組みが見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりにくいところ、間違いやすいところなど名前を表示し、分かりやすいようにしている、間違っって他者の部屋に入ったりしたら、声かけし誘導し対応している。		

## 目標達成計画

作成日：令和3年2月5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	47	服薬マニュアルに沿って、夜勤者が次の日の薬を薬箱にセットし、朝出勤した職員がチェックしている服薬時飲み込み確認不足で、誤薬(落薬)があった。	服薬ミスをなくすようにする。	服薬時職員間でダブルチェックを行い、必ず飲み込みの確認をする。	6ヶ月
2	33	事業所は看取りに関する指針や、マニュアルの作成が、整備されていない。	看取りに関する指針を作成し、職員間で共有する。	事業所としての看取りの指針を作成し、訪問看護のナースを講師として、勉強会等を開催し、全職員に周知できるように努めていく。ご家族の意向も定期的に、伺えるようにする。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。